

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

村田太郎氏 防府医師会 5月29日 享年 74

五十嵐三二氏 長門市医師会 6月19日 享年 66

編集後記

編集後記は、県医師会の広報担当役員の大事な仕事の一つである。

好むと好まざるとに関わらず、結構な頻度で順番が回ってくるため、遅筆で、どちらかというところ、ぼーっと生きている自分にとって、編集後記はなかなかの難所である。

いつものことではあるが、「今回はさてどうしたものか」と悩むところから始まる。

そして、無駄な抵抗と分かりつつも、過去の医師会報を引っ張り出してきてヒントが転がってないかと探してみたりする。ただ、締め切り間際の焦った心理状態で探し始めても、そこにたまたま、ヒントが落ちていることはまずない。

それは置いて、過去の医師会報を読むのは、意外と楽しいものである。すぐれた論説文からは、医療のあゆみを垣間見ることができるし、会員の随筆にも瞳目に値する文章がたくさんある。また、現在大御所の先生方がお若いころの写真、ご意見を（手軽に）拝聴することが可能なコンテンツは、医師会報だけではないだろうか。なるほど「医師会報を読むのが趣味の一つ」、という先生がいるのも頷ける。

現時点で、県医師会報は2002年1月21日（1632号）まで、300号以上さかのぼって読むことができる（そして2004年12月までは、月に3回発刊されていたことにも驚く）。

話は変わるが、編集後記を何回か書いているうちに気が付いたことがあった。

前述のように、医師会報は20年以上も前の記事や、編集後記をネットで簡単に見ることができる。逆に言えば、自分が覚えておきたい事を、編集後記にこっそり忍ばせておけば、（紛失するかもしれない紙ベースの手帳や付箋に書き留めたりしなくても）好きなタイミングでネット検索して記憶を辿れるじゃないか、ということに！（いけない役員ですね）

自分の編集後記を読み返すことは当分ないと思うが、数年、十数年がたって「あのころってどうだったっけ？」と回想したくなったら、検索してみよっと（もしくは将来、子供の披露宴であいさつを頼まれるようなことがあればやはり検索してみよう）。

（理事 藤原 崇）